



郡
制

明治廿一年四月廿六日



114
A 2610
4



郡制
第三章 總則

第一條 郡及其區域

第二條 郡住民及其權利義務

第三條 郡條例

第二章 郡會

第一條 組織及選舉

第二條 職務權限及處務規程

第三章 郡行政

第一條 郡參事會

第二條 郡委員

第四章 郡ノ經濟

第五章 郡行政ノ監督

郡制

第一章 總則

第一條 郡及其區域

第一條 此法律ハ各郡ニ施行スルモノトス

第二條 凡郡ハ從來ノ如ク國ノ行政區畫トス

第三條 凡郡ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡郡ノ

公共事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第四條 凡郡ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要

スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ

第五條 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

町村境界ニシテ併セテ郡界ニ當ルモノヲ變更スルトキハ郡界モ亦

共ニ變更スルモノトス

第六條 凡郡ハ其區域内ニ在ル各町村ヲ總括スルモノトス

内務大臣ハ町村會ノ具申ニ依リ人口二萬五千以上ノ町村ニ郡ノ區域ヲ離レ市ト爲ルコトヲ許スコトヲ得

人口二萬五千以下ノ町村ト雖モ特別ノ事情アルトキハ勅令ヲ以テ郡ノ區域ヲ離レ市ト爲ルコトヲ許スコトアル可シ

第七條 市ニシテ其人口前三年間二萬以下ナリシモノハ勅令ヲ以テ町村ト爲シ之ヲ郡ノ區域ニ編入スルコトアル可シ

第八條 第五條第一項第六條及第七條ノ處分ヲ爲ストキハ關係郡會及府縣參事會ノ意見ヲ聞キ第七條ノ場合ニ於テハ猶關係市會ノ意見ヲ聞ク可シ

前項ノ處分ニ付其郡市ノ財産處分ヲ要スルトキハ府縣參事會之ヲ議決ス可シ

第二款 郡住民及其權利義務

第九條 凡郡内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其郡住民トス

第十條 凡郡住民ハ左ノ權利ヲ有ス

- 一 此法律ニ從ヒ郡ノ行政及代議ニ參與スル事
- 二 郡ノ公共營造物ニ關スル規程ニ從ヒ之ヲ共用スル事

第十一條 郡住民ハ郡ノ行政及代議ニ關スル名譽職ヲ擔任スルノ義務ヲ有ス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

- 一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
- 二 營業ノ爲メニ常ニ其住居地ニ居ルコトヲ得サル者
- 三 年齢滿六十歳以上ノ者
- 四 官職ノ爲メニ郡ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
- 五 四年間無給ニシテ郡吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間郡議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者

六 其他郡會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者
前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任
期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル
者ハ郡會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下郡ノ行政及代議ニ參與ス
ルノ權ヲ停止シ且同年期間郡費ヲ增課スルコトヲ得其額ハ直接町
村稅ニ準據シ本人ノ其住居町村ニ於テ負擔スル郡費ノ四分一ヲ過
ク可カラス其增課金ハ住居町村ニ於テ徵收シ郡ノ金庫ニ送納ス可
シ

前項郡會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會
ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三款 郡條例

第十二條 此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項
ハ郡ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

郡ニ於テハ其郡ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得
郡條例及規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス且府縣ノ公文式ニ
依リ郡費ヲ以テ之ヲ公布ス可シ

第二章 郡會

第一款 組織及選舉

第十三條 郡會議員ハ第十七條ノ規定ヲ除キ人口五萬未滿ノ郡ニ於
テハ十八人トシ人口五萬以上ノ郡ニ於テハ人口一萬ヲ加フル毎ニ
議員三人ヲ増ス

議員ノ定員ハ郡條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

第十四條 前條ニ依リ定マリタル郡會議員定數ハ人口ノ多寡ニ準シ
之ヲ郡内各町村ニ配當ス但其一町村ノ配當數ハ總議員ノ三分一ヲ
超ユルコトヲ得ス

議員一人ノ配當ヲモ受ケサル町村ハ人口ヲ標準トシ聯合シテ選舉

區ト爲シ各區少クモ議員一人多クモ二人ヲ選舉セシム可シ
人口寡キカ爲メ議員一人ヲ選舉シ能ハサル町村郡内ニ一ヶ所ナル
トキハ人口ニ拘ラス其町村ニ議員一人ヲ配當ス可シ

前諸項ニ從テ議員配當ノ際端數ヲ生スルトキハ二分一若クハ其以
上ニ當ル端數ニ限リ之ヲ採用シ其他ハ棄却ス其二分一以上ノ端數
ハ滿數ト爲シ其二分一ノ端數ニ在テハ抽籤ヲ以テ之ヲ滿數ト爲シ
テ何レニ配當ス可キカヲ定ム可シ

第十五條 前條ノ議員配當及選舉區ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參
事會之ヲ確定ス

其確定シタルモノハ初回ハ三年間之ヲ存行シ爾後ハ十二年間之ヲ
存行スルモノトス其改正ハ期限内ニ町村數ニ増減アリタル時ニ限
リ之ヲ行フ可シ此場合ニ於テハ次ノ定期改選(第二十三條)ノ前其
配當法ヲ改正ス可シ

配當法及其改正ハ府縣ノ公文式ニ依リ之ヲ告示ス可シ

本條ノ確定及其改正ニ對シ關係町村ニ於テ不服アルトキハ告示後
二十八日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條 郡會議員ハ獨立シテ議員一人又ハ數人ヲ選舉スル町村ニ
於テハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區(第十四條第二項)ニ於テハ選舉代人之ヲ選舉ス選舉代人ハ
區内各町村會ニ於テ其町村ノ公民中町村制ニ從ヒ町村會ノ選舉權
アル者ヨリ之ヲ選舉ス選舉代人ハ一町村一名トス人口二百五十以
上ノ町村ニ於テハ人口二百五十ヲ加フル毎ニ選舉代人一人ヲ増ス
各町村ニ於テ選舉スル選舉代人ノ數ハ議員配當法中(第十五條)ニ
之ヲ定ム可シ選舉代人ノ職務ハ町村制ニ定ムル所ノ名譽職トス
町村長及助役ハ町村會議員ヲ兼子サル場合ト雖モ本條第一項第二
項ノ選舉ニ加ハルモノトス

町村會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村總會ニ於テ右ノ選舉ヲ行フ可シ

第十七條 各町村ニ於テ選舉スル郡會議員ノ外郡内ノ大地主ニ於テ其人員相當ノ議員ヲ選舉ス但第十三條ノ定員ノ三分一ヲ超ユルコトヲ得ス

大地主ニ於テ選舉スル議員々數ハ議員配當法中(第十五條)ニ之ヲ定ム可シ其員數ハ大地主ノ人員ニ増減アリテ隨テ大地主ノ選舉スル議員々數モ其配當法ニ定ムル所ヨリモ増減アリタル時ニ限り之ヲ改正スルモノトス

第十八條 大地主トハ郡内ニ於テ町村稅ノ賦課ヲ受クル所有地ヨリ總計地租何圓以上ヲ納メ又ハ無稅地ニシテ若シ有稅地タルトキハ同額ノ地租ヲ納ム可キ地主ヲ謂フ會社其他法人モ亦之ニ同シ但郡内ノ町村ニシテ此場合ニ當ルトキハ之ヲ除ク

第十九條 大地主トシテ選舉權アルハ内國人ニシテ公權ヲ有スル者ニ限ル

選舉權ヲ有スル大地主ニシテ其要件ノ一ヲ失フトキハ選舉權ヲ失ヒ身代限處分中又ハ租稅滯納處分中又ハ公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ裁判上ノ訊問若クハ勾留中ハ之ヲ停止ス

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ選舉權ヲ行ハサルモノトス

第二十條 選舉權ヲ有スル大地主ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得

婦人、年齡滿二十五歲未滿者、治産ノ禁ヲ受ケタル者及會社其他法人ハ必ス代人ニ依テ其選舉ヲ行フモノトス

其代人ハ内國ノ男子ニシテ公權ヲ有シ町村制ニ從テ獨立タル者ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ

示シテ代理ノ證トス可シ

第二十一條 大地主選舉ノ爲メ郡長ハ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載ス可シ

選舉原簿ハ毎回選舉ノ前府縣ノ公文式ニ依リ之ヲ告示ス可シ
關係人ニ於テ選舉原簿ノ正否ニ關シ異議アルトキハ告示後二十八日以内ニ郡參事會ニ申立テ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十二條 郡會議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ每三年町村ニ於テ選舉シタル議員ト大地主ニ於テ選舉シタル議員ト各半數ヲ改選ス若シ其員數二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ郡會議長郡會ニ於テ抽籤シテ之ヲ定ム

解任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第二十三條 議員中關員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上關員アルトキ又ハ郡會若クハ郡長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認メ又ハ解任者ノ選舉ニ關係シタル町村ヨリ之ヲ請求スルトキハ定期前ト雖モ其補闕選舉ヲ行フ可シ

定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル町村及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フ可シ若シ其前任者大地主ノ選舉ニ係ルトキハ定期改選及補闕選舉トモ大地主ニ於テ之カ選舉ヲ行フ可シ
補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第二十四條 選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ町村會及選舉代人ニ於テ選舉ヲ行ヒ次ニ大地主ノ選舉ヲ行フ可シ
町村會ニ於テ郡會議員及選舉代人ヲ選舉スルトキハ町村制ノ規定

ニ從フ可シ

一 選舉區ノ選舉代人ハ郡參事會ノ指定シタル町村ニ會合シ郡長若クハ其委任ヲ受ケタル町村長ヲ選舉會長トシ、大地主ハ郡役所所在ノ町村ニ會合シ郡長ヲ選舉會長トシテ選舉ヲ行フ可シ

第二十五條 選舉代人及大地主ニ於テ選舉ヲ行フトキハ左ノ規定ニ依ル可シ

第一 選舉前七日ヲ限リテ選舉人ニ招集狀ヲ發シ選舉ノ場所日時ヲ告知ス可シ

第二 選舉掛ハ選舉會長ト選舉會長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ選任シタル立會人二名若クハ四名トヲ以テ之ヲ組織ス立會人ハ名譽職トス

選舉會長ハ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

第三 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコト

ヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第四 選舉ハ被選舉人一名毎ニ投票ヲ以テ之ヲ行フ

第五 選舉人名簿中記載ノ順序ニ從ヒ選舉人ノ氏名ヲ呼フ其呼ハレタル者ハ投票ニ自己ノ氏名ヲ記セス封緘ノ上之ヲ選舉會長ニ差出ス選舉會長ハ封緘ノ儘之ヲ投票函ニ投ス投票ハ投票ノ全ク終ル迄函中ニ置ク選舉開會中ニ來着スル選舉人ハ其未タ投票ノ終ラサル選舉ニ加ハルコトヲ得

第六 投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過クルトモ其投票ヲ無効トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ

左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
- 二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ
 四 被選舉人名ノ外他事ヲ記載スルモノ
 投票ノ受理并効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同
 數ナルトキハ選舉會長之ヲ決ス

第七 有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得
 ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セ
 シム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ選舉會長自ラ
 抽籤シテ其二名ヲ取り更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ過半
 數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム

第八 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記録シ選舉ヲ終リタ
 ル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ
 投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ノ効力ニ關シ確定判決ヲスル迄之
 ヲ保存ス可シ

第二十六條 選舉ヲ終リタル後町村會ニ於テ行フ選舉ニ在テハ町村
 長、他ノ選舉ニ在テハ選舉會長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知
 ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ七日以内ニ之ヲ申立ツ可シ
 一人ニシテ數ヶ所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ
 應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其
 選舉ヲ辭スル者ト視做ス可シ

第二十七條 町村制ニ從ヒ町村ノ選舉權ヲ有スル郡内各町村ノ公民
 及此法律第十九條第二十條ニ從ヒ自ラ大地主ノ選舉ニ加ハルコ
 トヲ得可キ者ハ總テ被選舉權ヲ有ス
 代言人ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事
 ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選舉セラル、コトヲ得ス
 左ニ掲クル者ハ郡會議員タルコトヲ得ス
 一 所屬府縣ノ官吏

二 郡役所奉仕ノ官吏及有給ノ郡吏員
其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ
受ク可シ

第二十八條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉
ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ中立ツルコトヲ得

其訴願ハ郡會之ヲ裁決ス郡會ハ訴願ノ有無ニ拘ラス議員選舉ノ効
力ヲ審查裁決スルモノトス

第二十九條 當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ
又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモ
ノトス其要件ノ有無ハ郡會之ヲ議決ス

第三十條 第二十八條又ハ第二十九條ノ裁決又ハ議決ニ不服アル者
ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁
判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其裁決又ハ議決ノ執行ヲ停止スルコト
ヲ得ス但判決確定スル迄ハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第二欸 職務權限及處務規程

第三十一條 郡會ハ其郡ヲ代表シ此法律ニ準據シテ郡ニ關スル一切
ノ事件并從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラレ
、事件ヲ議決スルモノトス

第三十二條 郡會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 郡條例及規則ヲ設ケ并改正スル事
- 二 郡ノ歳入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定
スル事
- 三 決算報告ヲ認定スル事
- 四 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外郡支出ノ賦課法ヲ定ムル事
- 五 基本財産ヲ減却スル事

- 六 歳入出豫算ヲ以テ郡参事會ニ委任シタルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
- 七 郡有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
- 八 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外郡ノ吏員ヲ設ケ其員數給料及退隱料ヲ定メ又必要アルトキハ郡吏員ノ身元保證金ヲ徴シ并其金額ヲ定ムル事

- 第三十三條 郡會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル選舉ヲ行フ可シ
- 第三十四條 郡會ハ郡有財産及營造物ノ管理ヲ監督シ書類及計算書ヲ檢閲シ又ハ郡長ノ報告ヲ請求シテ財産營造物ノ監督議決ノ施行并ニ收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス
- 郡會ハ郡ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十五條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十六條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可カラサルモノトス

第三十七條 郡會ハ郡長ヲ以テ議長ト爲シ郡長故障アルトキハ附屬ノ参事官之ヲ代理ス

郡長参事官共ニ故障アル時ノ爲メ郡會ハ定期改選後ノ初會ニ於テ豫メ議員中ヨリ議長代理ヲ互選ス可シ其代理者ノ任期ハ三年トス

第三十八條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトス

議長及代理者共ニ故障アルトキハ郡會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ

第三十九條 郡参事會員ニシテ郡會議員ヲ兼テサル者ハ郡會會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

第四十條 郡會ハ會議ノ必要アル毎ニ郡長之ヲ招集ス但一年少クモ

一回トス若シ議員四分ノ一以上ノ請求若クハ郡參事會ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集ス可シ其招集并會議ノ事件ヲ告知スルハ會議ノ十四日前タル可シ但急施ヲ要スル場合ニ於テハ三日前ニ告知スルモ妨ケナシ

郡參事會員ニシテ郡會議員ヲ兼テサレ者ヲ郡會會議ニ招集スルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第四十一條 郡會ハ議員ノ半數以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十二條 郡會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ郡會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第四十四條 郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第二十五條第三ヨリ第七ニ準據ス可シ

第四十五條 郡會ノ會議ハ公開ス但議事ニ依リ秘密會ノ議決ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十六條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十七條 郡會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ願末并出席議員ノ氏名ヲ記録セシム可シ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ其議員ハ會議ノ前郡會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置ク可シ
郡會ノ書記ハ郡長之ヲ選任ス

第四十八條 郡會ハ其會議細則ヲ設ク可シ

二二二

第三章 郡行政

第一款 郡參事會

第四十九條 郡ニ郡參事會ヲ置キ郡長及名譽職參事會員四名ヲ以テ之ヲ組織ス但名譽職參事會員ハ郡條例ヲ以テ其定員ヲ増加スルコトヲ得

郡長ニ參事官ヲ附屬セシメタルトキハ郡長ノ外猶參事官ヲ以テ參事會員ニ加フ參事官ハ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス

第五十條 名譽職參事會員ハ郡會之ヲ選舉ス

其選舉ハ第四十四條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス府縣參事會之ヲ決ス可シ

名譽職參事會員ハ郡會ニ被選舉權ヲ有スル郡住民中年齡滿三十歲以上ノ者ヨリ之ヲ選舉ス

名譽職參事會員ハ第二十九條第三項ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス檢察官、警察官、神官僧侶其他諸宗教師並小學校教員ハ名譽職參事會員タルコトヲ得ス其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

第五十一條 名譽職參事會員ノ任期ハ四年トス任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

每二年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ノ解任者ハ參事會議長其會議ノ席ニ於テ抽籤シテ之ヲ定ム但解任者ハ再選セラル、コトヲ得

前項ノ場合ノ外任期中關員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ次回ノ郡會ニ於テ補闕選舉ヲ行フ可シ

第五十二條 名譽職參事會員ノ選舉ニ付テハ郡參事會自ラ其效力ノ有無ヲ議決ス

二二三

當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ノ一ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ郡參事會之ヲ議決ス

本條第一項第二項ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 郡參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 郡會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事
- 二 法律勅令及歲入出豫算表ニ準據シテ郡ノ事務ヲ管理スル事
- 三 郡會ノ選任ニ屬スル者ヲ除クノ外郡ノ吏員ヲ選任シ其行務ヲ指揮監督シ及懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及拾圓以下ノ過怠金トス有給郡吏員ニ對シテハ郡長モ亦此懲戒處分ヲ行

フコトヲ得

四 官廳ノ諮問アルトキ其意見ヲ陳述スル事

五 其他此法律ニ依テ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラル、事務ヲ處理スル事

第五十四條 郡參事會ハ名譽職會員二名及郡長又ハ其代理者出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記ス可シ

第五十五條 參事會員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件又ハ他ノ資格ヲ以テ其議決ニ加ハリタル事件又ハ意見ヲ陳述シタル事件又ハ理事者代理者等ト爲リテ取扱ヒタル事件ニ付テハ參事會ノ議事及議決ニ加ハルコトヲ得ス但同一事件ニ付郡會ノ議事ニ加ハリ又ハ郡長及郡參事官ニ於テ其事務ヲ取扱フト雖モ

郡參事會ノ議事及議決ニ加ハルコトヲ妨ケス
參事會員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサ
ルトキハ府縣參事會郡參事會ニ代テ議決ス

第五十六條 互ニ他郡ニ屬シタル數町村ニ關係シタル事件ニシテ郡
參事會ノ職權ニ屬スルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス

第五十七條 郡長ハ郡政一切ノ事務ヲ指揮監督シ處務ノ滯滞ナキコ
トヲ務ム可シ

郡長ハ郡參事會ヲ召集シ之カ議長トナル郡長故障アルトキハ附屬
ノ參事官之ヲ代理ス若シ參事官アラサルトキハ內務大臣ニ於テ郡
長ノ代理者ヲ命ス

郡長ハ郡參事會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ執行シ郡參事會ノ名ヲ以
テ文書ノ往復ヲ爲シ及之ニ署名ス

郡ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔ス可キ證書及委任狀ニハ郡會若ク

ハ郡參事會ノ議決ヲ記載シ郡長又ハ其代理者ノ外參事會員二名ノ
署名及郡長ノ捺印ヲ要ス

第五十八條 急施ヲ要スル場合ニ於テ郡參事會ヲ召集スルノ暇ナキ
トキハ郡長ハ郡參事會ノ事務ヲ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其處
分ヲ報告シ郡參事會ノ認可又ハ議決ヲ求ム可シ

第五十九條 郡長ノ權利義務ニシテ此法律ニ依リ變更シタルモノヲ
除クノ外總テ成規ニ依ル

第二款 郡委員

第六十條 郡ハ郡會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ
得委員ハ郡參事會ニ於テ其會員中又ハ郡會ニ被選舉權ヲ有スル者
ヨリ之ヲ選舉ス

委員ハ名譽職トス

第六十一條 委員ハ郡參事會ノ監督ニ屬シ郡行政事務ノ一部ヲ分掌

シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員中ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム但郡長ハ隨時委員會ニ出席シテ其委員長トナリ並其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス

第六十二條 常設委員ノ組織及職務權限ニ關シテハ郡條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四章 郡ノ經濟

第六十三條 郡内總町村ノ聯合ニ屬シタル財産及營造物ハ自今郡ノ所有ニ歸スルモノトス但權利及負擔ノ義務共ニ同時ニ郡ニ移ルモノトス

第六十四條 郡有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ郡會ノ認許ヲ得ルトキハ此限

ニ在ラス

第六十五條 郡有財産及營造物管理ノ費用、郡會郡參事會及郡委員ノ事務費、郡ノ名譽職員及郡吏員ノ報酬、給料、退隱料其他諸給與、法律勅令ニ依リ郡ノ事務ト定メタル事件及正當ノ郡會議決ニ依リ郡ノ公益ノ爲メ郡ノ共同事務ト定メタル事件ノ費用ハ總テ郡ノ負擔トス

第六十六條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ニ限リ之ヲ受クルコトヲ得
實費辨償額及報酬額ハ郡會之ヲ議決ス
實費辨償、報酬及有給吏員ノ給料、退隱料ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ府縣參事會之ヲ裁決ス其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十七條 郡ノ必要ナル支出ハ郡費ヲ以テ之ニ充ツ但郡會ニ於テ

郡有財産又ハ其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ可キコトヲ議決スルトキハ此限ニ在ラス

第六十八條 郡費ハ郡内各町村ニ分賦ス其標準ハ各町村前年度ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ依ル但其分賦ノ際ハ町村制第九十三條第九十四條ニ從テ町村稅ヲ賦課スル土地家屋營業及所得ヨリ納ム可キ國稅府縣稅ハ之ヲ算入スト雖モ町村稅ヲ免除シタル稅額ハ之ヲ除ク

其各町村分賦ノ額ハ町村制ニ從ヒ通常ノ町村費ト同ク各町村ニ於テ之ヲ徵收シ其總額ヲ郡ニ納ム可キモノトス

第六十九條 郡内ノ一部分ニ對シテ利益ヲ與フルコト特ニ多ク又ハ特ニ寡キ事業ヲ興ストキハ郡會又ハ關係町村ノ申立ニ依リ府縣參事會ハ其直接國稅府縣稅額ニ準據シテ該町村ノ負擔ヲ特ニ加重シ又ハ特ニ輕減スルコトヲ得

其負擔ヲ加重サレタル町村ハ郡會又ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ夫役又ハ現品ヲ以テ其加重額ヲ補フコトヲ許スコトアル可シ

第七十條 郡費ヲ各町村ニ分賦スルコトハ郡參事會ノ擔任トス町村ニ於テ其分賦ニ關シ訴願セントスルトキハ其分賦額告知ノ日ヨリ 日以内ニ之ヲ郡參事會ニ申立ツルコトヲ得其郡參事會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス
第七十一條 郡ニ於テ公債ヲ起スハ従前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ郡ノ永久ノ利益ト爲ル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ郡内各町村ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

郡會ニ於テ募債ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ募債ノ方法、利息ノ

定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ二年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ

定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス但此場合ニ於テハ郡會ノ議決ヲ要セス

第七十二條 郡長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前二ヶ月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第七十三條 豫算表ハ會計年度前郡會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並府縣ノ公文式ニ依リ郡費ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡參事會ハ併セテ其郡ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ

第七十四條 定額豫算外ノ費用及豫算ノ不足アルトキハ郡會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ郡參事會ハ郡會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第七十五條 郡收入ノ徴收、郡費ノ支出及其會計事務ハ郡役所ノ會計主任官ニ於テ之ヲ兼攝ス可シ但其出納及帳簿ハ之ヲ官金ヨリ分別ス可シ

郡會ノ議決若クハ府縣知事ノ指命ニ依リ郡收入役一名ヲ置キ前項ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得郡收入役ハ郡會之ヲ選舉ス

第七十六條 郡參事會ハ歲計豫算表ニ違ハスシテ郡ノ經濟ヲ行フ可シ
郡長ハ歲計豫算表ノ範圍内ニ於テ收支命令ヲ郡金庫ニ發ス可シ

第七十七條 郡ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲スコシ例月検査ハ郡長又ハ其代理者(第五十七條)之ヲ爲シ臨時検査ハ郡長又ハ其代理者ノ外郡參事會ノ互選シタル會員一名以上ノ立會ヲ要ス

第七十八條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ四ヶ月以内ニ之ヲ結了シ郡役所會計主任長ヨリ之ヲ郡參事會ニ提出シ郡參事會ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ郡會ノ認定ニ付スコシ

其郡會ノ認定ヲ經タルトキハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スコシ決算報告ヲ爲ストキハ第三十七條及第四十三條ノ例ニ準シ郡參事會員故障アルモノトス

第五章 郡行政ノ監督

第七十九條 郡行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ府縣參事會

ノ參與スルハ別段ナリトス

第八十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡郡ノ行政ニ關スル府縣知事若クハ府縣參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

郡ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ 日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スコシ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スコシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法

律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ郡ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第八十一條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第八十二條 郡會又ハ郡參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十三條 郡ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命スル所ノ支出ヲ定額豫算表ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ
郡會ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十四條 凡郡會又ハ郡參事會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ府縣參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第八十五條 郡會ハ勅令ヲ以テ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三ヶ月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但改選郡會ノ集會スル迄ハ府縣參事會郡會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第八十六條 郡條例制定ニ關スル郡會ノ議決ハ勅裁ヲ受クルコトヲ

要ス

三十八

第八十七條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ郡ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加スル事

二 郡内直接國稅徵收總額百分ノヲ超過シテ郡ニ負擔ヲ受ケシムル事

三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第八十八條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 基本財産ヲ減却スル事

二 郡有不動産ノ賣却讓與並質入書入ヲ爲ス事

三 各種ノ保證ヲ與フル事

四 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五ヶ年以上ニ亘リ

新ニ郡ニ負擔ヲ課スル事

五 第六十九條ニ準據シテ郡内一部分ノ負擔ヲ特ニ加重シ又ハ特

ニ輕減スル事

第八十九條 府縣知事ハ郡參事會員 郡委員 其他郡吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責及二十五圓以下ノ過怠金トス其過怠金ハ第五十三條第三ニ從テ徵收スル過怠金ト同ク郡ノ金庫ニ收入ス

追テ郡吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

一 郡參事會及郡長ノ懲戒處分(第五十三條第三)ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三十九

二 府縣知事ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 本條第一項ニ掲載スル郡吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務擧ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得但、其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外郡ニ對シテ一切ノ給與ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ府縣知事其審問ヲ爲シ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止

スルコトヲ得

第九十條 郡吏員其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ

郡ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ府縣參事會之ヲ裁決ス其

裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但、出訴ヲ爲

シタルトキハ府縣參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第六章 附則

第九十一條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間府縣參事會

ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第九十二條 此法律ニ依リ初メテ議員ヲ配當選舉スルニ付郡參事會

及郡會ノ職務ハ郡長ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第九十三條 此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼

ニ之ヲ施行セス

第九十四條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役

軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第九十五條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ

類別ハ內務及大藏省令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十六條 此法律ハ町村制ニ從テ町村ノ代議及行政組織ノ整頓シ

タル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ

依リ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十七條 、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

、、、、、、、、其他此法律ニ抵觸スル成規ハ第九十六條ニ記載シ

タル時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十八條 內務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命

令及訓令ヲ發布ス可シ

